

2020年12月の行事予定表

1	火		16	水	
2	水		17	木	祈祷会
3	木	祈祷会	18	金	
4	金		19	土	
5	土		20	日	クリスマス礼拝式
6	日	礼拝式(聖餐式)、教会役員会	21	月	
7	月		22	火	
8	火		23	水	
9	水		24	木	祈祷会 キャンドル・サービス午後7時30分
10	木	祈祷会	25	金	
11	金		26	土	
12	土		27	日	礼拝式
13	日	礼拝式	28	月	
14	月		29	火	
15	火		30	水	
			31	木	

12月お誕生・洗礼記念日の皆様、おめでとうございます。

編集後記

朝晩の冷え込みが本格的になりつつあり、季節の変化の恵みは確かに感じる  
ことが出来ます。今号は先日行われた永眠者祈念礼拝と墓前礼拝、そしてK.F.  
姉のお証し等をお届けしました。

11月22日より再びネット配信礼拝体制となりました。主は乗り越えられ  
ない試練を与えられない方です。祈りつつ、日々主を見上げてクリスマスに備  
えましょう。

# 教会月報

2020年12月

No.355

岡山ナザレン教会 月報編集委員会

## Xmasの恵み

「天使は言った。『恐れるな。私は、すべての民に与え  
られる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町に、あなた  
方のために救い主がお生まれになった。この方こそ主  
メシアである。』」

ルカによる福音書2章10、11節

今年は新型コロナウイルスによる影響で、クリスマスの行事も大幅に  
縮小せざるを得ません。非常に残念ではありますが、この緊急事態に対し  
て、私たちの教会ではクリスマス・カードを教会員たちで出しあって  
クリスマスの喜びを分かち合いたいと考えています。

さて、クリスマスは12月25日となっていますが、厳密にはイエス  
様がお生まれになった日を指すのではなく(羊飼いが野宿する季節と聖  
書は記す)、あくまでも神の御子が世にお生まれになったことをお祝い  
する日です。後代のローマ時代、太陽祭(冬至祭)を活用して祝ったと言  
われています。言うまでもなく、冬至から昼間が長くなります。神の御  
子が太陽を現し、太陽は復活のキリストを現すと言われています。

ところで、聖書の中心人物は誰でしょうか？  
ある人は、神であると答えます。また、ある人はイエス・キリストと。  
そして、ある人は聖霊なる神と答えます。いずれも正しいのですが、  
正解は、父なる神と子なる神イエス・キリストと聖霊なる神の三位一体  
の唯一の神様となります。父なる神が、子であるイエスを人間の姿を取  
らせて世に遣わされたのです。冒頭の聖書のお言葉は、神が与えて下さ  
った、人類への最高のプレゼントと言えましょう。この喜びを、当時野  
宿しながら羊の群れの番をしていた羊飼いたちに、天使たちによって一  
番早く、最初にグッドニュースを知らされたのでした。

今年のクリスマス。あなたは何を思いながら迎えられるのでしょうか？

牧師 永松 清

# 2020年永眠者記念礼拝開催



懐かしいお写真と共に



久しぶりの礼拝ご出席の方も多数ご参加

11月1日「聖徒の日」に、先に召された兄弟姉妹を偲んで皆さまの写真を飾り永眠者記念礼拝を献げました。N家(6)、N家(2)、S家(2)、K家(F姉)教会員家族等多くのご家族が出席され懐かしいひとときとなりました。例年は礼拝後に食事やお交わりの時間がありますが、今年は多人数での会食はできません。いろいろお話しを伺いたいところですが、ぐっと我慢して墓地に向かう皆さまを見送りました。コロナの中であって、このように集ってくださったご家族の上に神様の祝福がありますように。そして故人の信仰が受け継がれますようにとお祈りいたします。



## 墓前礼拝式レポート



2020年11月1日(聖徒の日)永眠者記念礼拝式後に墓前礼拝式が行われました。墓前礼拝式には14名の出席で故人を偲びました。秋晴れの晴天に恵まれ、小高い丘の上の墓地まで杖をついて一步一步登られる兄弟の後ろ姿を拝見し、温かいもので満たされ嬉しかったです。故人の思い出は、M.N.兄弟、Y.S.姉妹、K.Y.兄弟、E.S.兄弟、M.O.兄弟に語っていただきました。お話をお聞きしては懐かしく思い出し、御国に召されるまで、み言葉に聞き従われました。聖霊のお導きを受けられた兄弟姉妹の信仰に倣いたいと青空を見上げ神様を想いました。以上、墓前礼拝の恵みを感謝しつつ報告いたします。(※最後に、残念ながら今年は教会第二墓地に行けませんでした。次回には工夫したいと考えております。)

2020年11月12日 永松淑子



晴天に恵まれた第一墓地で行われた墓前礼拝



14名の参加で記念撮影

## 「なくてならぬものは多くはない」～2020年のクリスマスに思う～

古宮久美



今年、私は教会生活を送るようになって初めて「なにもない」クリスマスを迎えようとしている。例年なら、クリスマスツリーを飾ったら、もうそこからクリスマス行事やなにもかもが怒涛のように押し寄せてきていた。聖歌隊、祝会の企画、準備、オルガンの練習。私にとって、クリスマスツリーを飾るということは、競馬の馬がゲートイン、いままさまに出走！と身構えるような感覚だった。クリスマスの一連の行事が終わる頃にはレースを全力で走り終えたような、

やり切った感と燃え尽き感があった。みなさんが喜んでくれる、そのうれしさだけで、これまでクリスマスの準備に励んできた。しかし、コロナが流行し始め、当分聖歌隊の活動も、賛美礼拝もできない。そうと分かった時から、私はすっかりションボリしてしまった。私にとって、賛美が教会生活に占めるウェイトはとて大きかった。そのうえ礼拝で歌う賛美歌までかなり削られてしまい、私はすっかり張り合いをなくしてしまっていた。

そんなとき、ルカ 10:41「あなたは多くのことに心を配って思い煩っている。しかし無くてならぬものは多くはない、いや、一つだけである」というイエス様の御言葉が、ふと思い出された。その「なくてはならぬ一つ」とはなんだろう。私に与えられたみ言葉の意味を、今は考え続けている。例年のバタバタした中では得られなかった、考える時間、学ぶ時間、祈る時間。今年ちょっと寂しいけど、いいクリスマスになりそうだ。

## 長寿の祝いに記念品贈呈

10月25日(日)礼拝後、80歳以上の長寿をお祝いし、R.K.姉、M.M.姉(他に3名:T.D.姉・K.S.・I.F.姉)に、永松牧師から記念品の日めくりカレンダーが贈呈されました。

